

令和 7 年度 技術情報第 2 号
水稲 斑点米カメムシ類

令和 7 年 7 月 1 日
静岡県病虫害防除所長

斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ等）が平年よりも多く誘殺されています。
今後も発生が予想されるため、防除の徹底をお願いします。

1 発生状況

- (1) 令和 7 年 6 月 1 日～20 日の県内 4 か所の予察灯における斑点米カメムシ類の合計誘殺数の平均は、282 頭/か所（平年 26.8 頭、平年比 10.5 倍）と平年より多かった。県内 4 か所の予察灯の内、最も斑点米カメムシ類が誘殺されたのは、島田市中河であり、635 頭（平年 53.2 頭、平年比 11.9 倍）であった（表 1）。
- (2) 令和 7 年 6 月上中旬に行った水田周辺のすくい取り調査（捕虫網 30 回振り）による斑点米カメムシ類の捕獲数は、東部高冷地で平年より多かった（表 2）。
- (3) 名古屋地方気象台の 1 か月予報（6 月 26 日発表）では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないため、発生がさらに助長される恐れがあり、注意が必要である。
- (4) 6 月 25 日に磐田市の予察灯において、イネカメムシ 1 頭の誘殺が確認された。

2 防除対策

- (1) 畦畔など水田の周囲のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類（イネカメムシを除く）の発生源となるため、地域全体で一斉に除草する。また、アカスジカスミカメはカヤツリグサ科雑草にも寄生するので、カヤツリグサ科雑草も除草する。ただし、水稲の出穂間際の除草は斑点米カメムシ類の水田への侵入を助長するため、出穂 10 日前までに除草を終了する。
- (2) イネカメムシは他の斑点米カメムシ類と異なり、越冬地から水田に直接飛来してくるため、畦畔の除草による密度低減効果は低い。
- (3) 出穂以降は水田内の斑点米カメムシ類の発生に注意し、確認した場合は薬剤防除を実施する。特に出穂が周辺より早い水田は斑点米カメムシ類が集中するため注意する。
- (4) 斑点米カメムシ類（イネカメムシを除く）に対する薬剤散布は、成虫侵入期となる穂揃期（すべての茎のうち 80%の茎で穂が出た状態）とその 7～10 日後（幼虫ふ化期）の 2 回薬剤散布を行うと防除効果が高い。
- (5) イネカメムシに対する薬剤散布は、不稔対策として成虫侵入期となる出穂期（すべての茎のうち 50%前後の茎で穂が出た状態）と斑点米対策として出穂期から 7～10 日後（幼虫ふ化期）に薬剤散布を行うと防除効果が高い。
- (6) 薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構分類コードを参照し、異なる系統の

薬剤をローテーション散布する。薬剤については「[農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準](#)」を参照する。

表1 県内4ヵ所の予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数
(6月1日～20日)

地域	誘殺数(頭)			
	島田市 中河	磐田市 長須賀	磐田市 加茂	浜松市 中央区雄踏町
斑点米カメムシ類 (平年)	635 (53.2)	27 (2.0)	282 (15.0)	184 (37.1)

表2 6月の畦畔・雑草地における斑点米カメムシ類のすくい取り調査結果

地域	捕獲数(頭/30回振)				
	田方 平坦地	東部 高冷地	志太 榛原	中遠・西部	
				普通期	早期
斑点米カメムシ類 (平年)	0.0 (4.9)	3.4 (0.9)	17.8 (15.7)	5.5 (19.0)	13.9 (35.2)

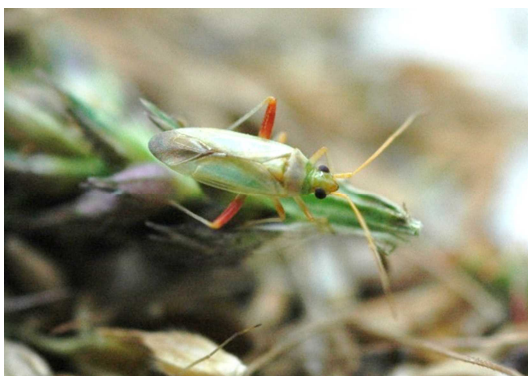


図1 アカスジカスミカメ成虫



図2 イネカメムシ成虫

【問合せ先】静岡県病虫害防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>

